

# 10 皇紀二千六百年祝賀のための満洲国皇帝訪日

1463

昭和14年11月22日

野村外務大臣より  
在満洲国成田(勝四郎)臨時代理大使宛  
(電報)

皇紀二千六百年祝賀を目的とする満洲国皇帝  
の訪日希望に關しわが国皇室の内意を照会あ  
るよう同国政府へ要請方訓令

付記 昭和十四年十一月十八日、外務大臣決裁

〔満洲国皇帝陛下皇紀二千六百年ニ當リ御祝ノ  
爲御訪日ニ關スル件〕

本省 11月22日後8時0分發

第七九一號(至急、極祕、館長符號扱)

紀元二千六百年ノ機會ニ満洲國皇帝御來訪ノ内議ニ關シ最  
近陸軍省ヨリ關東軍作成ノ御來訪要綱ヲ非公式ニ送付アリ  
之ニ基キ御來訪ノ具体案至急内協議方希望アリタルガ此ノ  
際満洲國政府ヨリ貴大使館ヲ通ジテ皇帝ニ於カセラレテハ  
御來訪ノ御内意アル處日本皇室ノ御内意特ニ時期等ニ關ス  
ル御都合承知セラレ度キ趣旨申出テラルルニ於テハ之ニ基

キ宮内省ヲ中心トシ關係當局ニ於テ早速内協議シ得ヘキニ  
付右大至急可然満洲國政府ニ御申入レ相成リ結果回電相成  
度シ右ニ付テハ宮内陸軍兩省トモ協議濟ミニテ陸軍省ヨリ  
關東軍へ電報シタル筈

(欄外記入) 尙昭和十年御來訪ノ際ノ康德元年十二月十八日附在滿大使  
宛外交部大臣公函第四四六號ニ該當スル正式通牒ハ内協議

ノ結果ヲ満洲國政府へ通ジタル上ニテナサルモノト了解  
シ居ルニ付爲念

(欄外記入)

(内協議ノ結果正式ニ訪日仰出サレタル旨日本政府へ通牒方依  
頼シ越セルモノナリ)

(付記)

(昭和十四年十一月十八日大臣決裁スミ)

満洲國皇帝陛下皇紀二千六百年ニ當リ

(欄外記入一)

御祝ノ爲御訪日ニ關スル件

(一)陸軍省軍務局(主任永井中佐、丸岡大尉)ヨリ十一月八日

關東軍ニ於テ作成シタル明年滿洲國皇帝御來訪要綱(別

紙第一號)ヲ持參シ至急研究ヲ得度ク外務省ノ意見ヲ徵

シタル上宮内省其他ノ向トモ協議シ結果ヲ纏メテ關東軍

ニ回報スルコトト致度シト申出デタリ

(二)本件ニ付テハ軍務局側ノ説明及宮内省側ノ内話ニ依ルニ

本年七月七日閣議ニ於テ陸軍大臣ヨリ總理ニ對シ別紙第

二號ノ如ク『滿洲國皇帝陛下明年三、四月(又ハ二、三

月)御來訪ノ内意ヲ有セラルル處日本政府トシテ之ヲ具

現スル様態度ヲ決定シ、右日本政府ノ内意決定ニ伴ヒ滿

洲國側へ之ヲ通スルト共ニ滿洲國政府ヨリ正式ノ意思表

示ヲ俟テ宮内省ニ御意向ヲ伺ヒ奉ル但シ此間適宜非公式

ニ宮内省ニ其ノ意ヲ通ズルコト』ヲ説明シ政府トシテハ

差支ヘナキコトヲ明カトセラレタルモノナリ

尙其後陸軍大臣ヨリ宮内大臣ニ對シ本件ニ付非公式ニ申

入レノ次第アリ其ノ結果七月二十一日迄ニ本件ハ左ノ二

條件ノ下ニ政府及宮内省方面共ニ異存ナキコトトナリタ

ル趣ナリ(別紙第二號參照)

(1)目下事變中ニ付御取扱ハ極メテ御簡素トナルノ已ムヲ  
得サルコト

(2)皇帝陛下再度ノ御訪日ナルモ 天皇陛下ノ御答訪ハ事

變中ニ付御實施ナキ儀ト諒解スルコト

尙事變解決後ニ於ケル 天皇陛下御答訪ノ有無ハ目下

ハ全ク別箇ノ御事トシテ諒解スルコト

(三)本件ハ敍上ノ經過ニ見ル如ク既ニ内定ヲ見、滿洲國政府

側ニモ通ジタルモノニテ宮内省側ニハ稍々躊躇ノ色見受

ケラルルヤニ感ゼラルルモ現在トナリテハ之カ中止等ハ

困難ナルベシ尤モ本件ニ付キテハ左ノ諸點考慮ノ要アル

ベシ

(1)元來皇紀二千六百年ノ祝典行事ニ付キテハ紀元二千六

百年祝典評議委員會乃至內閣紀元二千六百年祝典事務

局側ニ於テハ本祝典ヲ府中宮中ヲ擧ゲテノ盛典トシテ

御大典ニ準ズルモノタラシメムト希望スルモ宮内省側

ニ於テハ主ニ政府及官民合同ノ紀元二千六百年奉祝會

ノ催ニ係ル行事ト看做サムトスルヤニ察セラル而シテ

曩ニ評議委員會等ヨリハ外國ヨリ特派使節派遣問題研

究方ノ希望アリタルモ我邦ニ於テハ御大禮御大葬等ノ

- 場合ニ於テモ從來外國ヨリノ元首名代特派使節等ノ特派ヲ辭退シ居ル次第ニテ更ニ又時局等ノ關係モアリ本件祝典ニハ單ニ在本邦外交團ノ出席ヲ見ルコトトスルヲ以テ妥當トスルノ結論ニ達シタル次第ナリ(別紙第三號參照)從テ滿洲國ヨリノミ皇帝陛下ノ御來訪ヲ見ルハ稍異様ノ感ヲモ抱キ得ベキガ此ノ點ハ日滿兩國間ノ特殊關係ニ顧リミ理由アリトモ云ヒ得ベシ仍テ他國トノ振合ノ見地ヨリスレハ御來訪ノ時期ノ如キモ在本邦外交代表者ノ出席スル明年十一月ノ祝典舉行ノ際ヨリモ明年紀元節後ノ時期ヲ適當トストモ云ヒ得ベシ(然シ目下ノ處明年ノ紀元節ノ際ハ大ナル特別行事無キモノノ如シ)
- (2) 昭和十年ノ御來訪ハ昭和九年 秩父宮殿下カ滿洲國帝制實施祝賀ノ爲御渡滿遊バサレタルニ對スル御答禮ノ意味ニテ右御來訪ニ對スル御答訪ハ無キコト豫メ諒解アリタリ而シテ今回再度ノ御來訪ニ對スル 天皇陛下ノ御答訪ニ付キテハ別紙第二號ノ通ノ留保的諒解ヲ滿洲國側ニ通ジタルモノト見ラル
- (3) 目下進行中ノ協議ハ内協議ニテ此ノ結果滿洲國側ヨリ

(欄外記入二)

正式ニ我方ニ申出ヅル際ハ昭和十年御來訪ノ際同様滿洲國政府ヨリ在滿大使ヲ通ジテ我方ニ申出デ外務大臣ヨリ宮内大臣宛正式移牒スルコト必要ナルベシ

昭和十年四月御來訪ノ節ハ九年七月頃ヨリ宮内省及滿洲國宮内府間ニ數次ニ亘リ内協議アリ具体案決定ヲ見タル上九年十月滿洲國政府ヨリ在滿大使ヘノ申出ニ基キ外務大臣ヨリ宮内大臣ヘ正式ニ移牒セリ今回ハ右ト異ナリ關東軍ガ專ラ滿洲國側トノ間ニ案ヲ作り之ヲ基礎トシテ宮内省ト協議セムトスルモノナリ

(四) 就テハ此ノ際一應陸軍省軍務局ニ對シ別紙第四號ノ通回答スルコトト致度シ尙御旅程御行事等ハ宮内省、内務省(御警衛)、鐵道省等ニ關係スル所多キヲ以テ詳細ノ意見ハ控ヘタリ

(欄外記入一)

(十一月十四日ノ閣議ニ於テ明年紀元節直後ニ御來訪ノコトニ内定方陸相ヨリ申出アリ由大臣ヨリ御話アリ)

(欄外記入二)

(本件ハ宮内省ヲ中心トシテ協議アルコトトナリタルニ付直接

陸軍へ正式回答ハ見合ハスコトセリ(鈴木儀典課長印)

編注 本文書の別紙はすべて省略。

1464

昭和14年11月29日

在満州国梅津大使より  
野村外務大臣宛(電報)

満州国皇帝の訪日希望に關し同国政府よりわ  
が国皇室の意向照会について

別電

昭和十四年十一月二十九日發在満州国梅津大  
使より野村外務大臣宛別電

右照会

新京 11月29日後發

本省 11月29日夜着

十一月二十九日附公文ヲ以テ満洲國國務總理大臣ヨリ別電  
ノ通り申越シタルニ付然ルヘク御取計相成度シ尙御訪日ノ  
時期ハ明年二月頃トナル御豫定ノ趣拜承ス

編注 本電報および別電は電報番号不明であるが、第六五一

号および第六五二号と思われる。

(別電)

新京 11月29日後發

本省 11月29日夜着

日本帝國紀元二千六百年ヲ慶祝遊ハサレンカ爲敵國皇帝陛  
下ニ於カセラレテハ明年御訪日ノ御内意アリ就テハ貴國皇  
室ノ御内意承知致度シ

1465

昭和14年12月6日

野村外務大臣より  
在満州国梅津大使宛(電報)

満州国皇帝の訪日を歓迎するとの昭和天皇の  
意向を満州国政府へ伝達方訓令

本省 12月6日後7時發

第八三四號(極秘、館長符號扱)

貴電第六五一號及第六五二號ニ關シ

御申越ノ次第ハ早速宮内大臣へ移牒シ執奏方依頼シ置キタ  
ル處十二月六日附ヲ以テ同大臣ヨリ右ヲ奏上セルニ 天皇  
陛下ニハ欣然御迎へ遊ハサルヘキ旨追テ時節柄御接待ハ諸  
事簡素ト相成ルヘク且御來訪ノ時期ハ明年五月上旬ノコト

ニ致度右ノ趣先方へ申入方申越セルニ付責任國政府へ回答  
方可然御取計相成度シ

1466

昭和15年1月9日 在満洲国梅津大使より  
野村外務大臣宛(電報)

満洲国政府より皇帝の訪日に関する正式通報

接到について

新京 1月9日後発  
本省 1月9日後着

第七號(極秘)

貴電第八五五號ニ關シ(満洲國皇帝御來訪ニ關スル件)

今般満洲國政府ヨリ一月八日附公文ヲ以テ満洲國皇帝陛下  
本年五月上旬御訪日遊ハサルヘキ旨正式通牒越シタルニ付  
(公文寫空送ス)右ノ次第宮内省へ轉報方御取計相成度シ  
尙滿側ニ於テハ御訪日(殊ニ其ノ時期)ニ關シ公表スルコト  
ハ従前ノ例モアリ且時局柄治安上ノ點ヲモ考慮スル要アリ  
トシ慎重ノ態度ヲ持シ居ルニ付追テ何分ノ儀申進スル迄發  
表見合サル様致度シ

1467

昭和15年1月31日 有田外務大臣より  
在英國重光大使、在仏國沢田大使他宛  
(電報)

満洲国皇帝の慶祝訪日を例外とし皇紀二千六  
百年の奉祝行事には外国よりの特派使節派遣  
を辞退する方針について

付記 昭和十四年八月十日、儀典課作成

「紀元二千六百年祝典ニ際シ外國代表者ヲ招請  
スベキヤノ問題」

本省 1月31日後10時発

合第二一四號

紀元二千六百年奉祝行事要綱ニ就テハ既ニ公信ヲ以テ申進  
メ置キタル次第アル處外國ヨリノ特派使節差遣方ニ就テハ  
從來御大典ノ場合ニ於テモ御辭退相成居リ殊ニ今回ハ宮中  
ニ於テモ特ニ祝典ヲ擧ゲサセラレザル趣ニ付右特派使節ハ  
受ケサセラレザルモノト御承知相成度ク(満洲國皇帝陛下  
ニハ五月上旬慶祝ノ爲御來訪ノ筈ナルモ之ハ日滿兩國間ノ  
特殊關係ニ基ク例外ナリ)將又外國元首等ニシテ祝電發送  
セラルルモノアル場合其ノ時期ハ紀元節ヲ適當ト認メラル  
尙十一月十日ノ政府主催式典及次イテ行ハルベキ奉祝會主

催奉祝會ニハ 天皇皇后兩陛下ノ御親臨ヲ仰キ奉ルコトトナルヘク從テ右式典及奉祝會ニハ本邦駐劄各國大公使等モ招待セラルヘキニ付御合相成度シ

(上海宛)

北京へ轉電アリタシ

(英宛)

南阿、埃及へ轉電アリタシ

(佛宛)

伊太利、葡、白、土、西、瑞西、勃牙利、「イラン」、「イラク」、「アフガン」へ轉電アリタシ

(獨宛)

蘭、瑞典、洪、羅、「ラトビア」、芬へ轉電アリタシ

(米宛)

加、「コロンビア」、墨、玖馬、巴奈馬、「ベネズエラ」へ轉電アリタシ

(伯宛)

亞爾然丁、祕露、智利、「ウルグアイ」、「パラグアイ」へ轉電アリタシ

## (付記)

紀元二千六百年祝典ニ際シ外國代表者ヲ

招請スベキヤノ問題

(八、一〇)

一、別紙<sup>(省略)</sup>太田内閣書記官長ヨリ有田大臣宛八月四日附内閣閣

甲第一七一號及第一七二號ノ通紀元二千六百年祝典評議

委員會委員長ヨリノ報告ニ基キ八月四日閣議決定ヲ以テ

(一)明年十一月十日 兩陛下ノ行幸啓ヲ仰ギ政府主權ノ式

典ヲ舉行スルコト(二)右式典終了後 兩陛下ノ行幸啓ヲ仰

ギ紀元二千六百年奉祝會(財團法人、官民合同)ヲシテ奉

祝會ヲ開催セシムルコト(三)祝典記念章ヲ制定セラルル様

準備ヲ進ムルコト(四)明年二月十一日ヲ期シ恩赦ヲ行ハセ

ラルル様必要ナル措置ヲ講ズルコト(五)本祝典ニ際シ各省

ニ於テ行フヲ適當ト認ムル事項ニ付テハ關係省間ニ於テ

緊密ナル連絡ノ下ニ考慮シ之ガ準備ヲ進ムルコト但シ多

量ノ物資及勞力ヲ要スル事項ハ之ヲ避クルコトト決定セ

リ

右決定第五項ニ依リ外務省トシテモ本件祝典ノ機會ニ行

フヲ適當ト認ムル事項ヲ研究スルコト必要ニシテ現ニ祝

典評議委員會委員長阪谷男ヨリモ澤田次官ニ對シ此點ニ

付研究方特ニ祝典ニ際シ積極的ニ外國代表者ヲ招請スベキヤ招請スル場合何者カ招請主体タルベキヤ外國代表者ヲ如何ニ待遇スベキヤ等ニ付研究方希望アリタリ

ニ、本祝典ガ結局現實ニ如何ナル程度ニ實行サルベキヤハ時局ノ趨勢ニ左右セラルルコト大ナルベク前述外務省トシテ檢討スベキ點モ之ニ應ジテ左右セラルベキ所ナルベキモ本祝典ガ宮中府中ニ關係ヲ有スル事情ニ顧ミ先ヅ兩者ノ本祝典ニ對スル態度ヲ見ルニ左ノ如シ

内閣紀元二千六百年祝典事務局側ハ本祝典ヲ以テ御大典ニ準ズル格式ノモノタラシメントノ希望ニテ既ニ紀念章制定、恩赦奏請等ヲモ決シ居リ又關係者敍勳等迄モ内々希望シ居ル趣ナリ而シテ本祝典トシテ次ノ如キ事項ヲ實行シ度キ希望ナリ(一)二月十一日ノ紀元節(特ニ重カラシメ事變下ナルモ宮中賀宴ヲ仰キ度キ希望ナリ)(二)神宮竝ニ官幣社以下神社ノ祭典(三)十一月十日 聖上陛下御即位佳辰ヲ期シ 兩陛下ノ行幸啓ヲ仰キ政府主催ノ式典ヲ宮城外苑ニ舉行(約七萬人參列、國民各階層ヲ網羅シ在外同胞代表者モ參列ノ豫定)(四)觀兵式及觀艦式舉行(三)ノ式典ノ近くニ舉行觀兵式ハ支那派遣部隊ノ參加ハ困難ナル

ベキモ東京部隊ノ參加ノ下ニ行ヒ得ベク觀艦式モ實現可能ノ見込)(五)官民合同ノ財團法人紀元二千六百年奉祝會ガ(三)ノ式典終了後 兩陛下ノ行幸啓ヲ仰ギ奉祝會開催(明治神宮外苑候補地タリ)而シテ祝典ノ山ト云フベキモノハ二月十一日及十一月十日ニシテ外國代表者ノ參列ハ十一月十日ヲ中心トスル式典ニ付キ考慮サルベキモノナリ然ルニ宮内省側ノ態度ヲ見ルニ同省内ニハ口頭任命ノ省内小委員會アリテ本祝典ニ關シ協議中ノ由ナルガ其態度ハ頗ル受身の消極的ニシテ紀元二千六百年其ノモノハ特別ノ意味ナク(紀元二千五百年ニ付特別ノ祝典無カリキ)之ヲ宮中府中ノ別無ク國ヲ擧ゲテノ慶事タル御大典ニ準ゼシメムトスルハ理由ナキコトニテ政府ガ紀元二千六百年ヲ慶祝スルニ際シ奏請アルニ付行幸啓ヲ仰グト云フ次第ニテ祝典ニ際シ皇靈殿ニテ特別ノ祭事ヲ仰ギ度シトノ希望アリシモ斷リ目下ノ處十一月十日頃ニ宮中ニテ御饗宴ヲ仰ガムカトノ議アルモ之ヲ決定シタル次第ニアラズ紀元節ニ宮中ニテ賀宴アリト云フハ事實ニアラズ兎ニ角宮内省トシテハ最近紀元二千六百年ノ機會ニ奉祝等ノ意味ヲ以テ獻上物ヲ願出ツルモ御採納遊バサレザルベキ旨

ヲ明ニシタリ(六月二十七日附宮内次官通牒)

要之祝典評議委員會側乃至内閣ノ意向ハ時局ニモ鑑ミ大袈裟過ギズヤトノ氣持ニテ目下ノ處鳴リヲ靜メ居ル實情ニテ九月頃ニハ宮内省トシテモ其ノ意見ヲ確定スル筈ナリ

右ノ如ク現在ノ所宮中府中ノ間ニ本件祝典ノ意義内容等ニ付意見ノ一致セザルモノアル次第ナルガ時局ノ關係アレバコソ此ノ機會ニ本祝典ヲ盛大ニ舉行シ肇國ノ精神ヲ昂揚スベシトノ意見モアリ得ベク現ニ閣議ニ於テ前述ノ如キ決定ヲナシタル以上宮内省側モ政府側ノ希望ニ或ル程度迄動かサルルコトモアリ得ベシト看做サル乍併結局ニ於テ本祝典ガ其性質上政府中心ノ祝典タルコトニ變リ無ク之ヲ御大典ノ如ク宮中府中ヲ通ジテノ祝典ト看做スコトニハ困難アルモノト察セララル

三、齣テ本祝典ニ對シ如何ナル外國代表者ノ參列ヲ期待スルコトヲ適當トスベキヤニ付テ研究スルニ最モ鄭重ナル代表者ハ御名代又ハ特派大使ヲ各本國ヨリ派遣スルコトナリ右ノ派遣ハ歐米マテハ大体ニ於テ元首ノ即位又ハ就任式、結婚式、葬儀等ニ際シ之ヲ見ルモノニシテ稀ニ建國

紀念祭(昭和五年行ハレタル「ウルグアイ」國百年祭)ニモ派遣サル乍併本邦ニ於テハ 大正天皇ノ御大典、大喪儀 今上陛下ノ御大典等ニ際シ外國本國ヨリノ特ニ御名代又ハ特派大使ノ派遣ヲ辭退シ結局本邦駐劄各國大公使ガ特派大使又ハ特派使節トシテ參列セリ(其ノ主ナル理由ハ京都ニ於テ適當ナル旅舎ヲ求メ得ザルニ在リ。

但シ 明治天皇大喪儀ニ際シテハ獨、英、西ヨリ皇族、米ヨリ國務長官、佛ヨリ陸軍中將夫々御名代又ハ特派大使トシテ各本國ヨリ派遣セラレタリ)仍テ宮内省側ガ右ノ如キ盛儀ト同一視スル能ハズトナシ宮中府中ヲ擧ゲテノ祝典ト看做サレザル本件祝典ニ對シテ外國本國ヨリ御名代又ハ特派大使等ノ派遣ハ問題トナリ得ザルノミナラズ本邦駐劄ノ外國大公使ガ特派大使等ノ資格ニテ參列スルコトモ異様ナリト云フベシ(外國ヨリノ御名代又ハ特派大使等ハ其ノ本國ヨリ特派サルルト現地ニテ任命サルルトニ拘ハラズ我皇室ニ對シ差遣セラルル建前ナリ)仍テ結局本邦駐劄外國大公使等ガ其資格ニ於テ祝典中ノ適當ナル行事ニ參列スルコトガ目下ノ處最モ穩當ナルベシト思考セラル此ノ場合ノ招請主体ハ政府又ハ奉祝會ナル

ベシ一部ニハ本年度「ナチス」黨大會ニ大角、寺内大將等ガ招待サレタルニ對應シ防共友好國ヨリ特殊ノ參列者ヲ招待スベシトノ意見アル如キモ(内閣紀念二千六百年祝典事務局側ノ内話ニ依レバ大角、寺内兩大將ニ對シ渡獨ノ上ハ明年ノ祝典ニ付披露方依頼セル趣ナリ)毎年行ハルベキ黨大會ト本件祝典トノ間ニハ自ら差異アルノミナラズ政府主催ノ此種祝典ニ修好國中ノ一部ニ對シテノミ特殊ノ招請ヲナスコトハ機微ナルモノアルベシ

四、拓務省ニ於テハ明年祝典ニ在外邦人ノ代表者二十名(在満洲國邦人ヲ除ク由)ヲ參列セシムル爲五萬圓ノ豫算ヲ本年度ニ計上シ居ル處右參列ハ明年十一月十日ノ式典ニ參列ト決シタル爲十五年度豫算ニ繰越スコトトナリタル由ナリ

本祝典ニ關連シテ外務省トシテ特ニ何等カ豫算ヲ請求スル必要アルベキヤニ付テハ大体其必要ナカルベキ乎ト思ハル内閣祝典事務局ニ於テハ文化事業部ヲ通ジテ英、米、佛、獨、伊、洪ニ對シ本件祝典「シンフォニー」募集方ヲ依頼セシ趣ナリ



1468

昭和十五年五月十一日

在満洲国梅津大使より  
有田外務大臣宛

満洲国皇帝の訪日予定日を回国政府通報につ

いて

公機密第五四三號

(接受日不明)

昭和十五年五月十一日

在 滿

特命全權大使 梅津 美治郎(印)

外務大臣 有田 八郎殿

満洲國皇帝陛下御訪日ニ關スル件

本件ニ關シ四月十八日附儀機密第二二六號貴信ヲ以テ御申越ノ次第ハ早速満洲國政府ニ對シ傳達致置タル處今般同政府ヨリ別添寫ノ通回答越タルニ付右ニ御了知ノ上可然御取計相成度此段申進ス

(別 添)

外交祕第一四九號

康徳七年五月十日

満洲帝國

滿洲帝國駐劄

國務總理大臣 張 景 惠

大日本帝國特命全權大使 梅津 美治郎閣下

以書翰啓上致候陳者四月三十日附公文機密第六〇號貴翰ヲ  
以テ

天皇陛下ニハ來ル六月下旬 皇帝陛下ヲ御迎へ遊ハサルヘ  
キ旨御申越相成敬承致候仍テ右ノ趣宮内府大臣ニ上奏方依  
賴シ置キタル處今般同大臣ヨリ 皇帝陛下ニ於カセラレテ  
ハ六月二十六日東京御着ノ御豫定ヲ以テ御訪日遊ハサル旨  
仰出サレタル趣申越セルニ付右御了承ノ上可然御取計相成  
度此段回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表  
シ候

敬 具

1469

昭和15年6月26日

昭和天皇  
滿洲國皇帝 會談録

宮中における昭和天皇と滿洲國皇帝との會談

記録

付 記

昭和十五年六月二十六日

昭和天皇による「宮中御晩餐御言葉」

滿洲國皇帝陛下宮中ニ御參入 天皇皇后兩陛下ト

御會見

昭和十五年六月二十六日午後二時 滿洲國皇帝陛下宮城ニ

參入セラル 天皇陛下御車寄階上ニテ御對面御握手

天皇陛下 今日ハヨク御出下サイマシタ

皇帝陛下 先刻ハ有リ難フ御座イマシタ

天皇陛下ニハ直チニ鳳凰ノ間ニ御誘引アラセラレ 皇后陛

下ハ鳳凰ノ間入口ニテ御待受ケ共ニ同間ニ入ラセラレ三陛

下御着席御會談アラセラル

皇帝陛下 今日 天皇陛下ニハ態々東京驛迄御出迎下サレ

又高松宮殿下ヲ横濱迄御差遣アラセラレ誠ニ感謝ニ堪エ

マセヌ

天皇陛下 久々ニテ御目ニカカリ欣悅ニ存ジマス

皇帝陛下 今回參リマシテ第一ニ紀元二千六百年ノ盛典ヲ

御慶祝申上ゲ度ク又滿洲國ガ發達シ來リマシタコトハ日

本ノ御援助ニ依ルモノナルコトヲ感謝シ且ツ將來モ御援

助アラセラルコトヲ懇願致シマス彼ノ張鼓峯事件ヤ

「ノモンハン」事件等ノ無事解決ヲ見マシタノモノニ

陛下御威徳ノ然ラシムル所ト存ジ感謝ノ至リデアリマス

今回ハ此機會ニ於テ神宮神社御陵等ヲ參拜スル豫定ニテ尙ホ 天照大神ヲ奉シ建國神廟ヲ創建シタキ念願デアリマス

世界ノ形勢ガ頗ル重大ナル際ハ絃一字ノ精神ヲ奉ジ東亞ノ新建設ニ邁進シタキコトヲ申上ゲマス

天皇陛下 紀元二千六百年ヲ祝スル爲メニ態々御來訪アリタルコトヲ感謝致シマス國境方面ノ事件カ無事解決シタコトハ幸ヒデス今後日滿兩國ガ益々提携シテ東亞ノ新建設ニ進ムコトヲ希望致シマス

今回態々御來訪下サイマシテモ非常時局ノ際デアリマスカラ以前ノ如キ賑カナ催シヲスルコトヲ差控ヘマシタガ衷心誠意ヲ以テ御歡迎申上ゲマス

皇帝陛下 種々御配慮ニ預カリ有リ難ク存ジマス

皇帝陛下ニハ尙ホ 皇后陛下ト御談話アリタル後隨員ヲ御披露致サレタキ旨御申出デアリ 天皇皇后兩陛下中央ニ御起立滿洲國大使續テ隨員順次御前ニ進ミ謁見ス

皇帝陛下ニハ御土産品ヲ御披露致サレ度キ旨御申出デアリ三陛下御同列ニテ御土産品ヲ陳列セル西溜ノ間ニ向ハセラ

皇帝陛下ハ御土産品ノ前ニ於テ

滿洲國ニハ良キ品物ハアリマセズ所謂土産品デアリマス之レハ吉林省ノ虎ノ皮、之レハ滿洲ノ水産物、之レハ礦産物、之レハ農産物、之レハ滿洲ニ於ケル農民ノ生活狀況ヲ示ス寫眞、之レハ活動ノ「フィルム」デアリマス御閑ノ節御覽ヲ願ヒマス

天皇陛下 種々御心ニカケラレ有リ難ウ御座イマス永ク紀念トシテ保存シマス滿洲國ニハ日本ノ農民ガ移住シテ常ニ貴國ノ御世話ニナツテ居ルコトト思ヒマス

又 皇帝陛下ハ 皇后陛下ニ向ハセラレ

之レハ滿洲國ノ白翎トイフ鳥デ好ク嗜リマス、之レハ熱河方面デ出來タ絨氈デス、此レ等ハ 皇子方ヘ差上ゲル滿洲ノ風俗人形デス品物ハ極ク粗末デスガ御慰ミニ差上ゲマス

以上各人形ニ就キ御説明アリ

皇后陛下 種々有リ難フ御座イマス永ク紀念トシテ保存シマス

此時鹵簿ノ用意整ヒタルコトヲ申上ゲタル處 皇帝陛下御暇ヲ告ゲラル

天皇陛下 ソレデハ又今夕御出デテ願ヒマス  
皇后陛下 ハ西溜ノ間入口迄御見送りアラセラレ 天皇陛下  
ハ御車寄迄御誘引アラセラル途中 皇帝陛下ハ御庭ガ樹木  
繁茂シテ美麗ナルコトヲ賞贊セラレ御車寄ニ至リ 天皇陛  
下ト御握手ノ上御乗車赤坂離宮ヘ向ハセラル時ニ午后二時  
三十五分

(式部職御用掛 岩村成允謹記)

(付記)

六月二十六日

宮中御晩餐御言葉

此ノ度陛下カ我國ノ紀元二千六百年ヲ慶祝セラレンカタメ  
遙々御來訪下サイマシタコトハ朕ノ深ク感謝スル所テアリ  
マシテ五年前當地ニ於ケル忘ルヘカラサル交歡ヲ追懷シテ  
欣喜ノ情ヲ新ニスル次第テアリマス

貴我兩國ノ完全ナル協力カ善ク時局ノ試鍊ニ堪ヘテ東亞ノ  
平和ニ貢獻シツツアルコトハ洵ニ御同慶ノ至テアリマスカ  
陛下再度ノ御來訪カ兩國ノ親善ナル關係ヲ愈々緊密ナラシ  
ムル機縁トナルヘキコトハ朕ノ信シテ疑ハサル所テアリマ

ス

陛下ノ御治績益々舉カリ貴國民ノ間斷ナキ努力ガ建國ノ理  
想ヲ逐日實現セラレツツアルコトニ對シテハ衷心ヨリ讚辭  
ヲ呈セサルヲ得ナイノテアリマス

朕ハ茲ニ陛下ノ御來訪ヲ歡迎シ杯ヲ舉ケテ陛下ノ御健康ト  
貴國ノ隆昌トヲ禱リマス

~~~~~